

# だいきゅうしょう 第九章

## かろう ちょうさ 家老の調査

つぎ ひ かろう おんせん い おかみ わかとの あたら さどうか  
次の日、家老は温泉に行きました。「女将さん、わしは若殿さまより、新しい茶道家  
のこを調べ尽くすようにと仰せを賜ってきた。彼女について知っていることを全部  
おし 教えてください」と言いました。

おかみ すうじつまえ おんせん き おとうと てがみ わた ふたり  
女将は「そうですね。ゆきは数日前この温泉に来て、弟の手紙を渡しました。二人  
みち で あ おとうと ちゃ ゆ ちい むら ぼあ そだ  
は道で出会う、ゆきは弟に茶の湯をしました。ゆきは小さな村でお祖母さんに育  
てられたと言いました。親はゆきが生まれてから間もなく二人とも亡くなったと言いま  
し。かけいず ほん も い なまえ おし てがみ み  
した。家系図の本を持ってきました」と言って、おばあさんの名前を教えて、手紙を見  
せました。

じゅうごねん まえ なまえ なたか かけいず み  
「そうか。十五年ぐらい前、その名は名高かったようじゃ。その家系図を見てみた  
い」と家老は言いました。

おかみ かろう みちび わかとの かろう かけい  
女将は家老をゆきのところまで導いて「ゆきちゃん！若殿の家老さまがあなたの家系  
ず み おっしや い  
図を見てみたいと仰っています」と言いました。

かろう かけいず み かろう かけいず あらた  
それからゆきは家老に家系図を見せました。家老は家系図をつぶさに検めました。  
もん おぼ ほんとう かもん い  
「この紋はよく覚えておる。本当にあなたの家紋かの」と言いました。

わ ほん しる こた  
ゆきは「それは分かりません。この本にそう記されているだけですから」と答えて、  
ちい むら せいかつ たびじ かた  
小さな村の生活と旅路のことを語りました。

かろう おんせん さ ししや ちい むら はけん  
それから家老は温泉から去り、使者を小さな村に派遣しました。

まいばん しろ い わかとの ちゃ ゆ ふるま ゆう わかとの きつね しっぽ  
毎晩ゆきは城に行き、若殿に茶の湯を振舞いました。ある夕べ、若殿は狐の尻尾  
け つく うでかざ き どの うでかざ てくび ま  
の毛で作られた腕飾りに気づきました。「ゆき殿、どうしてそんな腕飾りを手首に巻  
き  
いているのか」と聞きました。

「この腕飾うでかざりですか。実は、幸運じつ こううんのお守まもりなのです。これは道みちで出会であった狐きつねに頂いただいた尻尾しっぽの毛けで作つくられています」とゆきは答こたえました。それからゆきは若殿わかとのに旅路たびじのことを語かたりました。

[Yuki no Monogatari](http://www.TheJapanesePage.com) by Richard VanHouten  
<http://www.TheJapanesePage.com>